

第206号

二〇二四年八月号

OB・Gニュース

発行責任者

社民党がんばれOB・G福島の会

eメール huryamichitatsu@orange.plala.or.jp



十分な睡眠がとれる環境づくりを!

自衛官の採用案内

子ども食堂に配布

(毎日新聞 7月 15日)

内閣府による「令和3年・子供の生活状況調査」の分析 報告書」では、ひとり親世帯の過半数が貧困に直面し食料が買えないことや、進学を諦めるなど貧困の連鎖が生まれやすい状況であること。

さらに日本財団によると、現在の日本では「7人に1人の子どもが貧困状態にある」と言われており、そのことが子ども食堂が増加する要因であると考えられると報告をしている。

自衛隊札幌地方協力本部(地本)が昨年9月以来、札幌市内にある複数の子ども食堂で、隊員の募集広報活動をしてきたことが判明した。そのことを子ども食堂の運営関係者が明らかにし、自衛隊も「札幌独自の活動」として事実関係を認めた。中学生への募集活動は、保護者が学校を通して行うとする防衛事務次官通達(2003年)があり、専門家は「直接、子どもを勧誘していたのであれば通達に抵触する」と指摘する。

札幌地本などによると、2023年9月上旬ごろ、市内の子ども食堂約80カ所にメールを送信。地本は「(食堂に来る)中学生以上の子どもさん、または保護者さまに対して自衛隊で勤務するための紹介パンフレットや各種資料のほか、子どもさん向けのグッズなどをお渡しさせてもらえないか」と

うことを求めた。そしてその求めを受け入れたのは約10カ所の食堂に対し、地本の広報官が制服姿で訪問、採用案内や紹介パンフレット、自衛隊機のペーパークラフト、缶バッジを配った。

自衛隊札幌地方協力本部はメールの文面は「相手がある」として認めなかったが広報官はメールを送ったことは認めた。

自衛隊の組織には、中学校卒業後すぐに入校できる「高等工科大学」というのがある。入学できれば最短で自衛隊に入隊することが可能であり、中卒が自衛隊に入隊するための最短ルートである。つまり陸上自衛官を育成するために設置されている専門学校的な存在である。

そして在学中には高等学校普通科と同じような教育を受けられることに加えて、自衛隊になるために必要な科目も学んでいく。

(資料)

高等工科大学校生徒募集ホームページより

◆生徒の処遇

身分は特別職国家公務員。

生徒手当は月額117900円(令和5年12月現在)。

期末手当は年2回(6月・12月)。

衣食住は全員駐屯地生活、宿舍無料、食事・被服類・寝具は支給または貸与。

その他省略。

貧困の農村では娘の身売りと

軍隊への志願が増えている

そこで経済的徴兵制を考える。

昭和初期の大恐慌は、国内の主力産業であった生糸は大暴落し、農村は極度の不況に苦しんだ。とりわけ東北、信州においては、貧困による娘の身売りが各地で発生した。また貧困地域の救済と銘打った国策「満蒙開拓」の推進が図られ、渡満した開拓移民は最も悲惨な戦争政策の犠牲者となった。

また貧しさゆえに3度の食事も事欠き、学校に弁当を持っていけない「欠食児童」も多くみられた。その一連の中で、少年たちも「兵隊になれば『白米』が食える」として志願をする若者の数は増大していったと伝えられている。

川崎市で貧困問題や平和運動に取り組む人たちでつくる『オンライン学習会かわさき』では、貧困問題と自衛隊をテーマにした講座を配信している。講師である武井由紀子さん(明日の自由を守る若手弁護士)が次のように述べている。

「格差が広がる社会で、貧困層の若者が経済的理由のために自衛隊に入ることになる『経済的徴兵制』が日本においても広がっているのではないかと提起である。」(東京新聞・1月19日)

札幌における今回の「子ども食堂」を対象にした自衛隊の応募策は、貧困を背景とする「経済的徴兵制度」を意味するものと解釈することは偏見であろうか。今、世界が侵略戦争による死と破壊、そして貧困の拡大を目にする今日。よくよく考えてみたいと思う。



【ちよつとひと言】

気づいたこと・感じたこと



朝ドラ「虎に翼」を見て思う！

夕食を済ませます。そして自室に戻りテーブル前に座るとき、両手を出して昨年より多くなっている「老人性斑点」を見る。寂しいことであるが体の細胞が年齢相応の姿を現すというところであろう。

そして79年前の敗戦の生活を思い出す。地方都市であつたが軍事工場もあり、市内にあつた工場は空爆を受け多くの人命と、財産を失つた。

そして郡山地方の学習会を思い出す。講師であつた歴史学者の高橋哲夫先生(福島県立安積高校の教師)を思い出す。先生は8月15日を「終戦日」ではありません。『敗戦』とらえなければならぬのです」と熱く語りました。「大東亜戦争開戦時の昭和16年、日本の国内総生産(GDP)は2045億ドル強、米国のそれは1兆1002億ドル強。実に5倍の大差であつた。しかも敗戦時の昭和20年には日本のGDPは987億ドル強、つまり大戦による疲弊のゆえに開戦時の半分以下に落ちていた。勝負にならない戦いに日本は突っ込んだ。これで勝てるはずはなかつた。そしてその戦いは、東京大空襲、そして広島、長崎への原爆投下。さらに300万強の尊い命を失つた。戦後は代用食と称してサツマイモを食べ、それぞれか苗床のイモヅルまで食べた。「終戦」では第三者的な痛みを伴わない捉え方です」と。

そして今、NHKの朝ドラ「虎に翼」を見る。空襲で親を失い、住む家もなく路上に群がる子どもたちの姿が映し出されている。私が小学6年の時だつた。当時の上野駅から「あめや横丁」に向かう交差

点の手前で私はさつま入りの弁当(おにぎり)をひらげた。そこに居た子どもが3人。戦闘帽を被つた兄さん、そして二人の妹が私の手元をいつと見つめる。やがて兄さんはその妹を促してその場を離れた。87歳になつた今、そして朝ドラの画面を見ると、あの上野駅の交差点の記憶をまざまざと呼び起こす。しかしそのような記憶を孫の年代に話しても通じないことを痛感し「歴史を伝えることの難しさ」を痛感する、今である。(降矢記)

2014年7月11日の日誌のページから

「投稿できず、日がすぎしてしまいました」とのお断りのうえ、次のお手紙を佐藤恒晴さん(社民党県連顧問・元衆議院議員)から頂きました。それは今月(7月)の11日、BS-TBS「四分五裂の旧安倍派の報道」を見て思い出し、10年前の日誌を開きそのページの写しでした。そして最後に文字も書けなくなりましたとの言葉が付け加えてありました。どうぞ御身を大切にしてください。(事務局)

『台風8号が全国各地で人命、住宅、公共施設に大きな被害をもたらした。今夕5時より久しぶりに駅前での街宣で「9条改悪反対、戦争を知らない政治家集団・戦争とは何かを語ろう」としない政治家・安倍首相に事の道理を話せない自民党集団・安倍首相は右翼暴力集団の偽装商店の頭ということだ」。沖縄知事選勝利のため、「の福島から何ができるか、まずやれることを始めようという

連帯の動きをつくりたいということを訴えた』

…Sさんの介護ノート…その4

在宅介護・在宅医療は変化なく推移をしていますが。そして毎週2回の「燃えるゴミ出し」時には、軽い時でも6キログラム、重い時は一輪車か車両で運ばないとならないくらいです。県内のある自治体では企業と提携して、紙おむつやパットを「ゴミ」としての減量化に取り組んでいると伺いました。ゴミ量の増大に拍車をかけているのは間違いないのですが、そのことを「悪者扱い」にされているみたいと感じてしまうこともあり、切ない思いに駆られます。

Sさん、毎日の在宅介護「苦労様です。貴重な体験を報告いただきありがとうございます。福島県はゴミの排出が多いという。そして紙おむつの排出は、介護者の心の負担を重くしていると思います。

早速次の自治体の取り組みを検索しましたのでその報告します。(事務局)

紙おむつをリサイクル

相馬市で固形燃料化

(5月28日・福島民友)

廃棄物処理、リサイクル業のタケエイ(東京都)や福島県相馬市などは、使用済み紙おむつのリサイクル化に向けた実証事業に取り組み。高齢化が進み、処理が課題になっている使用済み紙おむつを廃棄物固形燃料(RPF)として再利用する技術を確立し、実用化を目指す。将来的には、使用済み紙おむつを原料のパルプやプラスチックに戻す技術の開発にも乗り出す予定。

紙おむつのリサイクルの実証実験

県が実施の市町を支援へ

(NHK静岡ニュース・2月20日)

高齢化で大人用の紙おむつの使用が増える中、県は、紙おむつのリサイクルの実証実験を行う市や町を支援する方針を固めました。環境省は、高齢化でごみとして出される大人用の紙おむつの量が増加すると見込んでいて、2030年度までに全国で紙おむつのリサイクルを実施し検討している自治体の数を今の30程度から100に増やすという目標を掲げています。

県はモデルケースを構築するため、新年度から紙おむつのリサイクルの実証実験を行う市や町を支援する方針を固めました。ことし4月以降、参加する市や町を公募し、採用された2つの自治体にはそれぞれ最大で1000万円を支援するということです。

「紅麴」問題で76人関連死か

数社の報道機関が、小林製薬の「紅麴」の原料を使ったサプリメントとの関連が疑われる死者が新たに76人いることを報じました。結果して「血中のコレステロール値を正常に保つ」ためのサプリメントにより命を失うことになりました。

そこで考えてみたいと思います。日常的に各社のテレビによるサプリメント宣伝が行われています。

「今から30分以内にお電話をください。通常価格の5割引きます。それだけではありません。もう一つ追加をいたします。送料は無料です。お早めにお電話をください……」。そのような「コーシヤル」の中で私たちは「サプリメント信仰」にどっぷりとかかっているのではないのでしょうか。

「中国の秦の始皇帝が東方海上の三神山にあるという『不老不死の仙薬』を探すために、3000人の童男童女が命じられて船出。何日もかけた大航海を続けた」という逸話があります。

不老不死とは言わないまでもサプリメントの効果が大きく取り上げられています。錠剤を1錠飲むだけで突然エネルギーがみなぎり、肌がきれいに、心臓が正常に、そして胃腸が健全になるとしたら？。おのずと受話器に手を伸ばすのも不思議ではありません。

またドラッグストアのサプリメント売り場には、魚油のカプセルや容器入りのコラーゲンパウダー。マグネシウムのチユアブル錠、そしてありとあらゆるビタミン剤が所狭しと並べられています。その光景の背景に世界のサプリメント産業が、2025年までに2000億ドル(約30兆円)規模という膨大な利益を生み出されています。

加えて相互服用による医薬品の薬効減弱、副作用の増強も懸念されます。かかりつけ医、薬剤師に相談をすることが必要だと思います。

熱中症は、室内や夜間でも

多く発生しています。

エアコン、扇風機を上手に使っています。

体温を超える暑さが長時間続いています。夜間の気温も25度以上の熱帯夜となりそうです。高齢になりますと体内の水分が不足しがちとなり、暑さやのどの渇きに対する感覚が鈍くなります。水分をこまめに取りましょう。

報告・提言のひろば

■「若い」に伴う社会問題は本当に深刻な問題だと思えます。それとともに、戦争に向けて法的には外堀も内堀も埋められてしまい、残るは本丸のみとなつてしまいました。また自・公、維新、国民は衆院憲法審査会の閉会中審査を開催し「任期延長改憲」を進めていることも切実な問題です。横須賀では市民団体が街頭で戦争反対を訴えていた時、通りかかった小学校の子供たちが「僕たちにも発言させてよ」と言つて、「戦争はイヤだ、戦争になれば、お母さんが悲しむだろう」と訴えたということです。発言したその子の父親は自衛隊員だということです。そして6月7日～18日には日本全土で米軍が主催した軍事演習が行われ、自衛隊員4000人が動員されました。実戦を想定した訓練に、頻繁に動員される自衛隊員とその家族は本当に戦争を切迫したものと感じており、父親を戦争で失い母親を悲しませることのないようにしたいという、小学生たちの切実な訴えとなつたのでしよう。私も、子や孫を戦争で命を失わせることのないようにするために、やれるだけのことをやりたいと思えます。

【注】6月7～18日、米軍主催の多国間演習「ヴァリアント・シールド」に自衛隊は初めて参加。米国との連携を深め有事の際の即応態勢を強化する狙いがあることを防衛省が5月24日発表した。演習は北海道や東京、鹿児島など9都道府県の基地や演習場、日本周辺の海・空域で行われ、陸海空3自衛隊の約4000人が参加する。日米共同で

空挺降下や滑走路の復旧訓練を行い、敵の艦艇に対応する手順も確認する。
(事務局)

■今回も社民党な神奈川県連合メーリングリストにも配信させていただきました。私も今年からいよいよ後期高齢者の仲間入りで今月号の記事はとも身近な問題です。私の免許更新は去年でしたが、74才だと試験ではありませんが「実車講習」というのがあり、指導員が同乗して自動車学校の中のコースを運転させられました。講習ですから「不合格」というのはないのですが、「お上手ですが運転に慣れすぎていますからでしょうが、停止線できちんと停まっていますね」とかいろいろ言われました。まだ運転は大丈夫とは思いますが、若い頃に比べると反応が遅くなっているのは確かだと思います。

■雀の「餌やり」。拙宅では「ツバメ」です。餌ではなく「巢作り」です。コロナ前までは数年来なくなりましたが昨年から久しぶりに駐車場の屋根下に5月初旬に「つがい」です。6月初旬にヒナ6羽が生まれ先週無事に飛び立ちました。正直地面には「ふん」が落下し掃除が大変ですが毎日の成長を楽しみにしていました。何故か心が和みます。世の中のせちがらい毎日が癒される様でまた来年来てくれることを願っています。政局は「岸田下し」が始まった様ですが、いずれにしても国民を置いてきぼりにしない事を切に希望します。今週末は町内の「市道」の通学、通勤路サイドの除草作業をしました。少しでも安全の確保が目的です。

■毎号楽しみにしております。暑い季節となりますが健康に留意しましょう。

■ニュースに触発されて以下の報告をします。2008年に妻の父、翌年母が亡くなり、そのような実家の10坪の畑の管理をしていましたが、数年前

にその実家を取り壊しました。そしてその土地はある社会福祉団体が購入してくれました。畑も近所の方が購入してくれました。実家と土地のことは解決しました。そして昨年暮しまいと両親の菩提寺のあるお寺での永代供養としました。墓じまいとお墓の撤去費用と永代供養の費用は100万円単位です。多額の費用がかかることにも驚きましたが、これができる人は限られていると感じました。■運転免許の返納は切実な問題ですね。高齢者の置かれている状況に寒々としたものを感じます。子ども、女性高齢者といった弱者に冷たい政治は本来の「政治の絵」ではないと強く思います。

■岸田政権のあがきは「臨終目前の状況です。政権交代の絶好の機会なのに野党の結束は国民の期待とは開きがあり、「わが党優先」の態度は国民の期待に添えていない、むしろ絶体絶命の自民党を結果として救うことになりはしないかと思う人も多いのではないのでしょうか。指導制を發揮すべき立憲も、党内での指導力が衰えてきている状況では国民の期待に添えられないのではと危惧しています。もつと国民の期待を結集する政治的行動を強めるべきではないと思います。前回の政権交代をしたときの反省を繰り返さないためにも国民との対話そして党内の強い結束、他の野党とのしつかりとした協力体制を作り上げることが国民の目に見えるところで取り組んでほしいと思います。私たちは自主的に街頭で社民党の「のぼり旗」をたて市民に呼びかけをしています。東京知事選と社民党をアピールする行動です。どのくらい市民に社民党の存在をアピールできるかはわかりませんが、やれるだけやりたいと思っています。

■免許を返納して3年が経過しましたが、迷いとい

うか、戸惑いを感じる日々です。公共交通の充実をすべきです。そのことが高齢者の強い要求になって良いと思います。

■まだ7月初旬だというのに「数日すごい暑さです。野菜や果物の生育の異変、水揚げされる魚種の変化のニュースなどを目にするたびに今後の環境の変化が案じられます。一方で、温暖化の加速に加担するかと思いつつも体が耐えきれずにクーラーを使ってしまうています。高齢者の問題は避けて通れない問題ですね。私も80歳前には免許は返納しようと考えています。街中なので返納はまだ容易です。ただ、国全体をみれば、ニュースにもあるように公共交通機関の整備、返納者への補助など、突き詰めればこの国をどういう姿にしたいのか、つまり政治の問題(税金をどこに投入するか)になりますね。2日後は都知事選の投票日です。メディアでは都心部の掲示板ジャックなどが伝えられています。住宅街の掲示板にまでは及んでいません。ただ、候補者の公約などをまとめた選挙公報を目の当たりにしたときには愕然としてしまいました。大半が真面目な公約とは思えません。ネットの広告収入などを目的にしているのか、人目を引くことを目的にしたり、選挙を利用して悪のりしたり、こんな事態は想像できません。民主主義の基礎であるはずの選挙がほとんど壊れていると感じました。ごく一部の人の問題というよりも、社会の底流に従来のルールを軽んじる気分が広がっていることを危惧させる今回の都知事選です。

